

2023年8月20日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第66巻第20号(通算3352号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

週報

教会標語

かみさまがすべてのひととともにおられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

せいれいこうりんせつ 聖霊降臨節

だい しゅじつれいはい 第13主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

ぜん そ う もくとう
前 奏 黙 祷

まね ことば しよ
招きの詞 アモス書

しょう せつ
5章 24節

さんび か ばん
賛美歌 21-418番「キリストのしもべたちよ」(©教団讚美歌委員会)

せい しょ ふくいんしよ
聖 書 ルカによる福音書

しょう せつ
13章 10-17節

いの
お 祈 り

さんび か ばん ぶん だ すがた
賛美歌 21-290番「おどり出る姿で」(©JASRAC)

メッセージ「命よりも大切なもの」

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

さんび か ばん ばん しゅ う い
賛美歌 21-542番「主が受け入れてくださるから」(©JASRAC)

しゅ いの こうどくぶん しゅ いの ページ さんしょう
主の祈り 交読文による「主の祈り」(2頁をご参照ください)

ささげもの
献 げ 物 (*)

は け ん ばん かみ めぐ う せつ
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅく ふく
祝 福

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

こう そう ばん
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

ほう こく ページ さんしょう
報 告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた きき
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 アモス書 5章24節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

24 公正を水のように／正義を大河のように／尽きることなく流れさせよ。

聖書 ルカによる福音書 13章 10-17節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

10 安息日に、イエスはある会堂で教えておられた。11 そこに、十八年間も病の霊に取りつかれている女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった。12 イエスはその女を見て呼び寄せ、「女よ、あなたは病から解放された」と言って、13 その上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐになり、神を崇めた。14 ところが会堂長は、イエスが安息日に病人を癒やされたことに腹を立て、群衆に言った。「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらおうがよい。安息日はいけない。」15 しかし、主は彼に言われた。「偽善者たちよ、あなたがたは誰でも、安息日に牛やろばを飼い葉桶から解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。16 この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではないか。」17 こう言われると、反対者は皆恥じ入ったが、群衆はこぞって、イエスがなさったすべてのすばらしい行いを見て喜んだ。」

交読文による「主の祈り」

司式者 この地にもいますわたしたちの神さま
 みんな み名があがめられますように。

司式者 正義と平和を捜し求めるわたしたちに
 みんな み国がきますように。

司式者 幾世紀にもわたって待ち望む人たちに
 みんな み心が天で行われるとおりに、地にも行われますように †

司式者 世界の全ての国々の上に
 みんな また差別されたものの側に立つ人々の上に

司式者 わたしたちの日ごとの食べ物を
 みんな 今日もお与えください

司式者 新しい社会をつくるために
 みんな わたしたちの負い目をおゆるしください

司式者 わたしたちを試みにあわせないでください
 みんな いつも新しい自分たちでありますように †

司式者 戦争という悪しきものからお救いください
 みんな 命を粗末にする悪からお救いください

この世界の全てはあなたの手の中にあります アーメン。

《先週のメッセージより》8月13日

「〇〇は忘れたころに」より

水谷憲牧師

聖書 ルカによる福音書 12章 35-48節

この世の終わりとキリストの再臨の日は、私たちには知りえない。「私たちがすっかり忘れていた頃に、突然来るかもしれないから、常に目を覚まして準備しておきなさい」というこの話。ある人は「主人の帰りを待つ人、彼らは、腰に帯を締め、灯りをともしている。それは、競争の時、スタートの合図を前にしたあの息詰まるような瞬間である」と言うが、果たしてそうなのか。神が私たちに、そんな極度の緊張を強いているようには、私には思えない。

確かに「腰に帯を締め」という言葉は、聖書の世界の人々にとって、それは裾をまくり上げることであり、たすきがけと同様、何かを今から本格的にさあやるぞ、という意気込みを表すものでもあった。しかし一方で、神は「ともし火をともしていなさい」とも言う。ともし火は、当時簡単には手に入らなかった火種を常に手元に備えておく手段の一つでもあった。キリストがこの話を通して伝えようとした備えの姿とは、「今か今か」ではなく、もっとゆとりをもった姿勢だったのではないか。信仰生活とは、そんな何かに追われるようなものではないはずだ。

キリストは「明日のことを思い悩むな」とも言われた。いつ来るか分からないものを今か今かと緊張しながら待つのではなく、その日が忘れていたころに突然来たとしても慌てることのないように、余裕をもって備えておいたらいい。それは、神から注がれている愛を今度は隣の誰かに注ぐこと。イエスから与えられた慰めや励ましを、今度は隣の誰かと分かち合うこと。私の罪が赦されている分、今度は隣の誰かを赦そうとすること。「おはようございます」と元気よく挨拶すること、「ありがとうございます」と感謝の気持ちをきちんと伝えること、「ごめんなさい」と素直に謝ること、「いいよ」って気持ちよく許すこと。そんなささやかな愛と平和の関わり合いを重ねながら、日々を隣人と一緒に歩いていくなら、本来この御言葉はそれほど気にかけるほどのものではなくなるはずなのだ。

災害、病気、死、愛する者との別れ、この世の終わり……私たちには、いつそれが来るのかは分からないし、それは私たちが忘れた頃にいつも突然やってくる。「まあ、まだ来ないだろう」では遅いのだ、きっと。この世の終わりがいつ来ても慌てないように、またいつ皆よりも先に神の御許に召されても悔いの残らないように、毎日を送っていきたい。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 (8月13日)

礼拝出席 大人5名 献金 大人5,000円 感謝

インターネット回線の不調により、礼拝の中継配信は出来ませんでした。

◎次週 2023年8月27日(日) 聖霊降臨節第14主日礼拝

招きの詞 詩編 92編 5-6節

聖書 出エジプト記 23章9-13節

ルカによる福音書 14章1-6節

メッセージ「みんな『小さい人』だった」牛田匡牧師

賛美歌 21-518 (©P.D.)、21-196 (©JASRAC)、21-487 (©JASRAC)

◎お知らせ

・「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。感染症や熱中症の予防のためなど、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。

・8月26日(土)13時~15時半に、福岡県弁護士会館2階大ホールにて、ジャーナリスト後藤秀典氏の講演会が開催されます。ZOOMでのオンライン参加視聴も可能です(参加無料・事前申込不要)。2022年6月17日、最高裁は原発国賠訴訟4事件に対して耳を疑うような判決を出しました。幾多の法律家・法学者が判例解説においてその違法性を指摘し、

「変更すべき」と批判されている「6.17最高裁判決」は、どうした経緯で出されたのか?

最高裁・巨大法律事務所・国・東電の「衝撃の人脈と癒着」を解き明かす後藤秀典氏の最新の講演をぜひご聴講ください。

ZOOMに直接アクセスください

ID: 823 8893 4268

パスコード: 844412



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
8/27	牛田牧師	誕生者祝福式 おにぎり支援
9/3	水谷牧師	ユウカリスト 教会を考える会
9/10	牛田牧師	
9/17	水谷牧師	(敬老の日礼拝)

ジャーナリスト
後藤秀典氏
講演会

2023年8月26日(土)
13:00~15:30(開場12:30~)
福岡県弁護士会館 2階大ホール
福岡県福岡市中央区六本松4丁目2-5
資料代:500円 ※会場参加者のみ資料配布

後藤秀典氏 Profile
ジャーナリスト、1964年生まれ。静岡県出身。「クローズアップ現代」「BS1スペシャル」など報道・ドキュメンタリー番組を製作。「分断の果てに“原発事故避難者”は問いかける」(20年7月NHK総合放映)で資田ジャーナリズム賞受賞。岩波書店『世界』『東京電力11年の変節』連載(22年8-11月号)。新日本出版社『経済』『国に責任はないー原発国賠訴訟・最高裁判決は誰がつくったか』(23年5月号)。今年8月『東京電力の変節ー最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃』が旬報社から刊行。

「国に責任はない」
原発国賠訴訟・最高裁判決は誰がつくったのか?
最高裁・巨大法律事務所 国・東京電力
調査報道で明らかになった「スブスブ」の関係
衝撃の人脈と癒着!

オンライン(ZOOM)参加もできます!
https://onl.bz/R1mWc8V 参加無料・事前申込不要
ID: 823 8893 4268 / パスコード: 844412

【主催】福島原発事故被害救済九州訴訟団 【共催】原発なくそう!九州玄海訴訟・玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会
【協力】PP21ふくおか自由学校運営委員会・今を生きる会 【お問い合わせ】福島原発事故被害救済九州訴訟原告団事務局(内藤 哲)
Tel.: 090-9530-3148 Mail: chian7110@ybb.ne.jp